



読字 萩原田 親

No. 597

2010/2/15

日中友好新聞

発行所

 日本中国友好協会
 〒110-0052 東京都千代田区千代田
 南千代田1-1-1 東武ビル3階

 日中友好協会
 岡山支部

 〒710-8238
 岡山県岡山市東区3-8-30 511
 TEL: 0861-272-3010
 郵便番号 710-8238
 01250-0-3835

 日中友好協会
 倉敷支部

 〒712-8911
 倉敷市連島中央1-8-1
 (宮地方)
 TEL/FAX: 0860-446-2711

 日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://izhong.web.infoseek.co.jp>
 メールアドレス
 rizhong86@hotmail.co.jp


第82回日中文化講座

二ホン語を教える人のための5か条

日中友好協会では、中国帰国者支援の一環として、日本語教室を開いています。

講師は日中友好に関心のあるボランティアの方達です。教えるというより「文化」の違いを確かめ「話しことば」を伝授している・・・という雰囲気です。

それでも、どうしたら日本語をマスターしていただけるか、と一生懸命のあまり、教条的になったり、せっかく、教室に足を運んで来ているのに、わからない・むずかしい! と思ったり帰らないといけなかったりという場面が多々あります。

そこで、日中友好協会岡山支部の第82回文化講座として、理事長である竹内和夫氏を講

師に、「二ホン語を教える人のための5か条」というタイトルで、日本語の教え方を学ぶ事になりました。

5か条とは、①相手は何を求めているのか? ②アイウエオ? ③どんな練習をするべきか? ④どんな単語や文が必要か? ⑤二ホン語、いまとむかし、です。

4月11日(日)、岡山市国府市場にあります高島公民館で行われます。日本語教室の講師をされている人はもちろん、関心のある方、どなたでも参加していただけます。この機会に日本語について、あらためて気づいてみませんか!

稲葉泰子

第82回日中文化講座

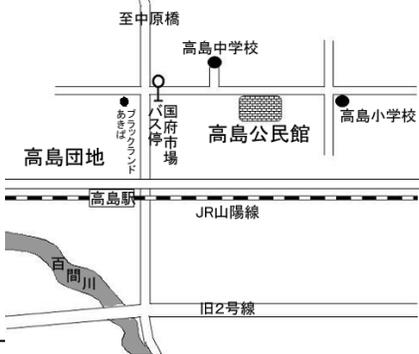
二ホン語を教える人のための5か条

【日時】4月11日(日)10時~12時

 【場所】高島公民館
 岡山市中区国府市場99-5
 TEL(086)275-1341

 【講師】竹内和夫
 (岡山大学名誉教授 言語学
 日中友好協会岡山支部理事長)

【参加費】無料



中国と日本の「歴史教育の彼我の差を痛感」

下の文章は、岡山高退教(岡山県高校・障害児学校退職教職員の会の略)の会報一八号からの転載です。

井上さんは中国帰国者の日本語教室「岡山の会」の代表で、長岡県営住宅の中央集会所で帰国者に日本語を教えています。また、高校退職後に、中国で大学生に日本語を教えた時の体験から、中国と日本の歴史教育の彼我の差を痛感されています。

一月三十一日に、日中有識者による日中歴史共同研究の報告書が、戦後史部分のぞき、公表されました。南京大虐殺について、双方がその事実を確認したことは、一つの成果といえよう。

しかし犠牲者数では、双方の主張を併記するなど、どちらかに一致させようとはしていない。今後共同研究をすすめる、他の分野も含めて双方の認識の溝を埋める努力が必要となってきました。

その時に大切になるのが「政治との距離感」を保つことだと思います。

日中不再戦を掲げ六〇年になる私たちの日中友好協会は、日中間での歴史について相互理解を深めていくために、今後の共同研究に大いに期待したい。

共同研究を続けていくことは、多くの困難をともなうと思いますが、日本側座長の北岡伸一氏(東大法学部教授)が「たとえ相手の意見に賛成できなくても、相手がそう考えるのはある程度理解できる」と述べていますが、こうした観点で、今後の共同作業のなかでは、大切になると思います。

 日中友好協会岡山支部
 事務局長 小林軍治

そのようなことを思いながら・・・

井上進夫

私は先日、岡山県中学校弁論大会で主催新聞社長賞を受けた中学生の文章を読んだ。内容は次のようなものだ。中国出身の両親を持つ中学生が、夏休みを利用して祖父母の住む中国へ行った時、中国の友人たちに「南京大虐殺のこと、教科書に書いてあるの?」等々日中戦争のことを鋭く質問され、自分がこのことに関してほとんど知らない(学んでない)ことを痛感した経験を述べたものだ。

それを読んで私は、退職後に中国福建師範大学で日本語を教えた時のことを思い出した。

私は任期の終わる6月末ごろの最後の授業で、少し感傷的になりながら、「七月七日は何の日ですか。」と問いかけた。するとある学生がさっと手を上げて「はい、その日は1937年盧溝橋事変が起きた日です。」ときっぱり答えたのだ。七夕を期待していたのは私だけで、学生たちの多くは納得顔だ。日本の学生でこの日を盧溝橋事件と答える者がどれくらいいるだろうかと、強い印象を持ったことを思い出したのだ。

中国では大学生だけでなく中学生でも、あの戦争を強い憤りを持って語るということを知り、改めて歴史教育の彼我の差を痛感した。歴史を語る時、立場によって解釈が異なるのは仕方ないが、その時代に何があり、その結果どうなったのかを、国民(特に若者)がそれぞれ自分で判断できる材料だけは与えることは必要である。それなくしては、お互いの国同士(若者同士)の真の理解は生まれまいだろう。

そのようなことを思いながら、私はいま中国帰国者のための日本語教室で、週1回、講師をしている。中国残留孤児だった方をはじめ、いろいろな立場の人たちが勉強に来る。彼らと日本語を学んだり、時には中国のことを教えてもらったりして楽しんでいる。



右が井上さん



三江学院の校舎



南京民間抗日戦争博物館

第80回日中文化講座

「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」

石子順氏 講演 ⑩

中国映画界では10年間ほとんど新作映画は作らなかつた、作れなかつたんです。1975、76年ごろになると、周恩来あたりが、中国映画界には新作映画が少ないではないか」と江青女子に文句を言ったために、江青女子は映画を作る事を命令したんです。

自分の名前は出ないんですからね。

あとになってから、若い世代の映画監督達から、文化大革命の末期に文革の映画を撮ったという事を追求されている大監督などいましたけど、それを追求するのは可愛そう過ぎるよ。

1930年代の映画スターで、中国映画の大スターで趙丹という人がいました。聶耳(ニエアル)という音楽家をモデルにした音楽映画とか、阿片戦争の主役をした俳優です。この人も捕まっちゃって、死刑にしてもかまわないと言わ

るぐらいだった。彼の書いた文章を読むと、いつ殺されるかわからない状況だったのが助かったんです。なぜ助かったかというと、趙丹と日本の映画女優の高峰秀子さんとは親交があった。文化大革命の前に高峰秀子さんと、そのご主人でシナリオ作家で映画監督の松山善三さんは趙丹に呼ばれて一か月間上海とか中国全土を旅行して、すっかり親友になつてしまった。彼らが帰ってきてしばらくたつたら文化大革命です。だから高峰秀子さんは文革の最中いろんな人が来るとそういう人たちに会うたびに、中国からの要人に趙丹さんどうしてます。趙丹さん元気ですか。」と聞いて、中国から来る人には必ず聞いていたらしいです。

つづく

石子順氏の講演の テープ起こし秘話

真田紀子

現在連載中の、第80回日中文化講座「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」のテープから原稿を起こして、もつとも困るのが人名です。特に中国人の名は、ほとんど聞いたことがない人名です。石子さんのレジメに書いてあるとすぐにわかりますが、例えば聶耳(ニエアル)など。今回、チョウタンという音でネット検索しましたが、出てきません。

そこで、思い出したのが、自宅にある高峰秀子著の『つづきの虫』です。目次を引くとありました。この本は彼女と交友のあつた人々について書か

中国はどこへ向かうか④

栗本 泰治

胡錦濤あいさつと中国の経済発展2

佐藤先生が中国を訪問したのは1957年ですから、文化大革命の前で、社会主義の経済をどのように発展させるかまだ模索の時代でした。残された当時の写真を見ると、

大規模な橋梁建設や工場建設が進む一方、先進のソ連の経験を積極的に学習しよう」というスローガンが見られますから、経済は中央指令型の統

制経済だったでしょう。非効率な統制経済では発展しません。78年に、その経済を改革し、市場経済を導入する開放政策を取り入れたのです。

佐藤先生の訪中の時の記録を見ると、この記録は訪中団の副秘書長だった岡山市の正司武雄さんの記録ですが、香港から中国の深圳へ向けて橋

を徒歩でわたって国境を越えた」とあります。そこから北京まで行くのに5日かかっています。民間では飛行機は使えなかつたのでしよう。全部汽車の旅です。アメリカや日本などからの中国封じ込め政策によつて、苦しめられていたのです。そういう中で、社会主義のもとで市場経済を導入することを決めたのです。

それ以後の30年間は、経済成長の年平均伸び率が9、8%で、2008年にはGDP(国内総生産)は、日本に次いで世界第3位に発展するに至りました。こんどの世界経済危機を見ても、アメリカ一極の従来の経済秩序ではどうなることか。 つづく

ています。その2番目に載っていました。趙丹(チョウタン)です。その一節を紹介します。

「中国旅行から戻ったばかりの杉村春子先生から電話が入った。

あなたがたの探していた趙丹さんにお目にかかったのよ。……ええお元気で。趙丹さんは、映画女優だったころの江青の過去をよく知っていた、という理由で、五年三か月も独房に入れられていたんですって……。松山さんが今度の映画代表団で中国へ来られるのを、待つて、待つているからと伝えてくれたって……。よかつたわねえ、本当に……。」

南京の暮らしあれこれ

報告会に参加して
真田紀子

2010年2月6日(土)午後1時半から、岡山県生涯学習センターで、曾田和子さんによる報告会が行なわれました。ご本人もおっしゃっておられましたが、予想外に多くの方が参加されて、レジメが足りない状況でした。

私も久しぶりに、岡山・十五年戦争資料センターの研究会に参加でき、また、とても興味のある題材だったので、時間があつという間に過ぎて、4時をまわつてしまい、残念ながら途中で退席しました。

まず、曾田さんが働いておられる南京市郊外の三江学院というのが私立大学であり、かなり裕福な家庭の子女が多いというところ。そこで日本語を教え



南京のお話を・・・曾田和子さん

るようになって、5年を超えていることなど話されて、続いて大学での1年間の生活を説明してくださいました。

中国では新学期は9月から始まり、9月10日の教師節、中教師節、10月1日の国慶節等々。そのなかで教師節とは、今の日本では考えられないほど、教師を学生が敬つてくれるそうです。その日は、学生が教師を招待してくれ、お金も彼らが出してもてなしてくれるとのこと。

特に今回の報告の中心は、2008年に開催された岡山・十五年戦争資料センター設立十周年記念『総動員の時代』パネル展のパネルの一部を、中国で展示されたことでした。

2009年9月18日、南京民間抗日戦争博物館(中国での民間の施設は大変珍しいそうです)で開催されるまでの取り組みや、その催しに三江学院の学生が学長の指示で参加したことなど、驚きの内容でした。

次回の新聞送付作業は2月22日(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

和製
林内内井
小竹竹坪